

# Wakkanai

# SSW

## 特集

---

### 稚内市教育相談所

〒097-0024 稚内市宝来2丁目2番24号

☎教育相談所 (0162-24-4402)

☎子育て相談電話 (0120-085-415)

HP : <http://wakkanai.info/wks/>

Mail: [kyouiku.soudanjo@ewq.jp](mailto:kyouiku.soudanjo@ewq.jp)

---

# 2011



写真 立花 富美雄

# SSWの活躍に感謝

## 巻頭言

このたび、稚内市教育委員会（以下「市教委」）では、稚内市教育相談所所報を発行することといたしました。創刊号では、スクールソーシャルワーカー（SSW）の活動内容やその活躍ぶりを特集いたしました。多くの方々に役立てていただきたいと思います。

市教委では、23年度から巡回型スクールソーシャルワーカー2名を「稚内市教育相談所」に配置するとともに、さらに稚内市適応指導教室「つばさ学級」の体制も強化し、いじめや不登校問題などに対応しております。

もとより、児童生徒に何か問題が発生した場合、すぐに対応が求められるのは学校現場ですから、スクールソーシャルワーカーは、まず学校から信頼されなければ、その力を発揮することができません。そして、そのためには児童に信頼されることや、保護者と対話ができること、ときには課題を共有し、一緒に改善策を話し合うなどの能力が期待されます。

その意味で私たちは、素晴らしい人材を確保することが出来たと思っておりますし、素晴らしい活躍をしていただいています。

昨年度改定した「子ども支援指針」でも述べていますが、子どもに寄り添って課題を解決するためには、どのステージであっても、連携の力（ネットワーク）が大切です。

その連携の輪の中に、素晴らしい二人を加えることができたことは、稚内市の子育てにとって喜ばしいことと思っております。

稚内市は今まで関係者で築き上げてきた子育て力で、不登校児童生徒が他所に比べると少ないことは誇れることですが、登校に困難を覚え、悩んでいる子どもと保護者がいることも現実です。

これからも活躍を期待しています。

皆様も、スクールソーシャルワーカーの活動に温かい応援をお願い申し上げます。

平成24年3月 稚内市教育委員会教育部長 中澤敏幸

## 目次

### SSWの活躍に感謝

稚内市教育委員会教育部長 中澤敏幸  
..... 1

北地区児童生徒支援ネットワークに  
さらなる厚みを  
～情報連携から行動連携へ  
SSWが果たす役割～  
稚内中学校教頭 網谷一幸..... 2

塩田SSWさんの活躍に感謝を込めて  
稚内中央小学校教頭 佐々木 康 . . . 4  
SSW熱海さん 大活躍ありがとう！

稚内港小学校教頭 長岡勇樹..... 5

熱海さんの行動力と心づかいに感謝  
稚内南小学校教頭 佐近 強..... 6

熱海先生へ、愛を込めて花束を  
稚内東小学校教頭 坂本孝行..... 7

東中学校における  
SSW（熱海先生）に感謝！  
稚内東中学校教頭 加賀 誠..... 8

児童・保護者・学校の応援団  
SSW塩田久美さんに感謝の気持ちをこめて

潮見が丘小学校教頭 石澤正紀..... 9

「感謝と思いやりの心」をこめて  
潮見が丘中学校教頭 安栄智裕..... 10

抜群の評価に感謝して  
稚内市教育相談所長 平間信雄..... 11

# 北地区児童生徒支援ネットワークにさらなる厚みを ～情報連携から行動連携へ SSWが果たす役割～

稚内中学校教頭 網谷 一幸

## はじめに・稚中の概要

稚内中学校校区である北地区は、南北に6 Km、稚内発祥の市街地である。南は行政・経済・文化の中心であり、北の海側は、沿岸漁業・水産加工、山側は、住宅・寺院が多い。保護者の職業は多種多様であり、教育に対する関心と期待は大きい。現在は、産業構造の変化や宅地・商業施設の移転に伴う過疎化・少子高齢化が進み、生徒数も減少してきた。昭和33年より16町内会に子ども会、昭和59年には、北地区子育て連絡協議会が結成され、地域ぐるみの子育て運動が脈々と続いており、地域の支援力は高い。

近年、9年間のスパンで子どもを育てることをめざした小中連携が進んでいる。その一方では、経済的社会的格差の拡大の影響から、要保護・準要保護家庭の割合が年々増加の傾向にある。

## 1 北地区生徒支援ネットワークの結成

北地区生徒支援ネットワークは、平成19年（稚中60周年）に結成された。民生児童委員、保護司、少年警察ボランティアなどの地域の人材が参加することにより、学校の生徒指導の機能を強化して、日常的に生徒の支援等に対応していく中学校区中心のネットワークです。

平成22年には、生徒指導上の必要性および小中連携の強化を図る意味から、小学校と共同した「北地区児童生徒支援ネットワーク」に名称を変更しました。支援ネットの役割は、不登校や問題行動を起こしている個々の生徒について、学校をはじめとする機関が情報を共有し、共通理解のもと、各機関の対応を有機的に結びつけて効果的な指導・支援を行うことです。

原因が家庭環境の変化に起因するものが増えてきています。その背景としては、経済的社会的な格差の広がりにより、要保護・準要保護家庭の割合が年々増加していること、少子高齢化の進行にともない、地域コミュニティー機能の低下も加わり、家庭の持つ子育て機能の低下、孤立化・蜜室化、さらには家庭崩壊、児童虐待などの問題を生み出す大きな要因になっているように思います。このように地域の中で育つ子どものかかえる困難さは、学校だけでの対応で解決しようとすることに無理があります。

平成22年度からは、支援ネットでの情報交換から民生児童委員と連携したケース会議の開催と具体的な支援活動の展開、教育相談所や稚内市子ども課との連携を通じて、すばやい支援活動を展開し解決を見た事例も生まれています。情報交換と共有化から「行動連携」ができる組織へと進化しつつあります。

## 2 情報交換から行動連携への脱却

この間、経験した事例を分析してみると、事例の

## 3 「SSW」の役割と今後への期待

学校現場での苦労の一つに、非協力的な家庭とど

う関わりを持つかという点があります。

地域コミュニティー機能の低下や家庭生活の大変さもあって、子育ての知恵を学ぶ人と人とのつながりが薄くなる中で、自分の子育てを客観的にふり返ったり、学び合ったり、激励し合ったりする機会が失われつつあるように思います。保護者にしてみれば、学校（担任）からの指摘や指導は、家庭の問題に介入されるという身構えと煩わしさといった感情をうむことが多いように思います。

学校と家庭を結ぶ、もしくは、とりなす役割を果たしてくれたのが、今年配置された「SSW」です。塩田さんの人柄と合わせて、権威を匂わせない、聞き上手で話しやすい、親の立場で、同性という立場で共感的に受け止める等、対応の原則に立ち、かつ積極的に関わりを持っていただきました。果たしていただいた役割は次のとおりです。

#### ①生徒との関係づくりと情報収集・提供

小学校での支援員の経験を生かして、稚中生と面識があることから生徒の内面に秘めた悩み等を聞きだし、学校への情報提供をしていただいたこと。学校への注意喚起と合わせて危機感知力の精度を高めていただいた。

#### ②保護者との関係づくりと橋渡し

担任では踏み込めなかった保護者との関係づくりに積極的に取り組んでいただいた。古着の提供、健康や悩み相談を通して心をほぐしていただいたことで、久々に学校での三者面談にも参加してもらえた家庭もあった。

#### ③学校の指導方針に基づくチームの一員に

得られた情報の提供はもちろん、今後の支援方向について常に学校の指導方針と照らし合わせて保護者と関わってくれる姿勢に、チーム稚中の一員として大きな期待と信頼を寄せている。

こうした連携・支援活動は未知の分野ともいえます。ですから、学校としての方針確立と他機関との信頼にもとづいた連携・実践・検証が不可欠です。学校は「生徒のために」を第一義として動きますが、そのためにも、保護者や地域との関係づくり、事例に応じた他機関との連携が今以上に求められることでしょう。中でも、SSWの役割をどう学校運営に位置づけ、効果的に活かしていけるかどうかは、学校の生徒指導方針の豊かさと連携力の度合いにかかっているといっても過言ではありません。

## 平成24年度 稚内市教育行政執行方針

(関係部分抜粋)

いじめ・不登校対策につきましては、「稚内市子ども支援指針」に基づき、学校・家庭・関係機関と緊密な連携を図りながら早期発見・早期解決に取り組むとともに、教職員のカウンセリング能力の向上を図るための必要な研修などを行います。

あわせて、児童・生徒の悩みや不安などに対応するため昨年度より実施している巡回型スクール・ソーシャル・ワーカーを積極的に活用するとともに、「稚内市教育相談所」及び稚内市適応指導教室「つばさ学級」の充実と機能強化に努めてまいります。

稚内市教育委員会

# 塩田SSWさんの活躍に感謝を込めて

稚内中央小学校教頭 佐々木 康

週に1度、学校を訪ねて来てくれる塩田SSWさん。その活躍ぶりは幅広いものがあります。

一人ひとりの児童が抱える悩みには、学習・生活・交友関係の悩み、家庭の大変さや両親の不和などから来る不安など、様々なものがあります。そうした子どもたちの心に寄り添いながら声をかけていただいています。その声かけの質は教員のそれとはまた違うアプローチ、いわゆるカウンセリングマインドです。そして何よりもありがたいのは、そうした子どもとの関わりから、私たちが知り得ない新たな情報を引き出してくれることです。得られた情報は、我々に惜しみなく提供してくれます。だから、こちらからも積極的に学校で見られる子どもたちの様子を伝え意見交換をします。そうすることで、いろいろな角度から子どもたちのことをとらえることができます。我々の児童理解もさらに深めていくことができるのです。

また、塩田さんとの情報交換は児童のことだけにとどまりません。その背景となる家庭の問題にも及びます。児童への働きかけを適切に行うためには、家庭の実情をより詳しく知ることが必要になります。そんな時にも進んで動き、各方面に働きかけたり、足を運んでくれたりして必要な情報を集めてくれます。

具体的な対応においての「行動連携」も次々に生まれています。例えば、いくつかのトラブルをきっかけに、学校と家庭・保護者とのコンタクトがとりづらくなってしまいうケースがあります。また、時には保護者が学校に対して心を開かず頑なになってしまい、完全にシャットアウトしてしまうことも起こり得ます。そんな苦しい局面でも頼りになるのが塩田さんです。同じ母親として、より保護者と近い立場からのコンタクトを図り、突破口を見いだしてくれます。

「兄弟がたくさんいて大変でしょ。ウチにまだ息子の古着がとってあるんだけど、よかったらもらってくれますか？」

「私もいろいろと苦労したんですよ。他にも何か困っていることはないですか？」

そんな気軽な声かけを通して保護者とのつながりを作ります。学校とはまた違った側面からのアプロー

チです。そこで掴んだ細い糸をたぐり寄せ、いろいろな相談ができるような関係作りを進めます。やがては保護者の胸の内にある本音や悩みを引き出してくれます。そこを足がかりに、学校としても方針を持って保護者への対応を進めていくことが可能になります。難しい保護者への対応という点でも、塩田さんは大きな戦力です。

先生方にも気軽に声をかけてくれます。学校には、担任教諭・TT指導の先生・養護教諭や特別支援員・図書協力員や事務・公務補など、様々な役割の職員がいます。性格もいろいろ、人それぞれです。悩みを抱えている人もいます。そうした悩みをなかなか表に出せない先生もいます。そんな先生方の気持ちを察し、それぞれの立場に寄り添いながら優しく関わってくれます。中には窮地にあっても助けを求めることができない先生がいます。塩田さんはそんな先生方のつらい思いも、管理職にそっと届けてくれます。

学校にはいくつも大事にしなければならない関係があります。『教師と子ども』『教師と保護者』『学校と家庭』『子どもどうしの関係』『職場の人間関係』あるいは『学校と地域や各教育関係機関との連携』…などなど。今、あらためて塩田さんの果たしている役割に注目してみると、それらの関係づくりに大きく寄与していることに気付かされます。ある意味すべての面において、役割発揮していただいているとも言えます。それはネットワークのアンテナの役割であったり、人間関係の潤滑油の役割であったり…。時には課題克服に向け先陣で切り込んでいく実働部隊であったりします。これはもう、塩田さんの本来の職務の範囲をとうに超えていますね。感謝という言葉では言い表せないほど、お世話になっているとしか言いようがありません。

ここまで書くと、塩田さんが学校にとってどれほど必要で、大切な存在であるかはもうお分かり頂けたことと思います。そしてこれからも、大切な存在であり続けることに疑いの余地などありません。ですから『ありがとうございます』の感謝とともに、何としても、  
「これからもずっと、よろしくお願いします。」  
と言いたいです。

# SSW熱海さん 大活躍ありがとう！

稚内港小学校教頭 長岡 勇樹

## 活躍その1

保護者同士の関わりがもてないなど、気になる児童のお母さんと相談相手としての関係を築くため、積極的に声をかけ校外でお茶を飲みながら、または学校にお母さんが来られた時に、お母さんの悩みを聞いてくれました。

話を共感的に聞いてくれること、お母さん同士ということもあり、助けられたお母さんがいます。

## 活躍その2

お母さんの育児上の悩み（学習全般、生活上）や家庭環境の悩みなど、熱海さんは親身に一つ一つ丁寧に聞いたり答えたりしていただきました。また、諸機関（児童相談所・子ども課・民生委員）につないでもらったり、地域の情報を教えてもらったり、学校に多くの貴重な情報を提供していただいております。

## 活躍その3

普段から来校した際には、子ども達に「頑張ってるねえ～、すごいねえ～」と学習意欲が増すような温かい声かけをしてくださいました。特に、心配な子どもを中心に声かけをしていただき、授業中立ち歩く子や一人で取り組めないでいる子に優しく接していただきました。TTのような支援をしていただくことも度々でした。

## 感謝

休み時間には、教室に遊びに来てくれて、子ども達とたくさん交流をしていただきました。体育の授業ではキックベースボールを一緒にしていただきました。子ども達も熱海さんの来校を楽しみにしています。

いろいろな学校の子供達を見ていることから、本校の子どもの様子（良さについて）について気づかれたことを聞くことができ、指導に役立っております。

**ありがとうございました。**

# SSW熱海さんの行動力と心づかいに感謝

稚内南小学校教頭 佐近 強

失礼な話、スクールソーシャルワーカー（略してSSW）というお仕事があることは知っていましたが、そのお仕事の中身は、まったくの勉強不足でほとんどわかっておりませんでした。あわせて、初めてお話をいただいたときは、学校配置型ならいざ知らず、「1週間に一度の来校で何が出来るのだろうか」と疑問を持ったことも正直なところでした。

しかし、その疑問は、熱海さんに2回3回と学校に来ていただく内に、見事に覆されました。積極的に先生方に話しかけ、今、担任が気になっている子を情報収集する早さと巧みさは「すばらしい」の一語に尽きます。そして、その子に対するアプローチのうまさ。学校の教職員とは違った、近所のおばさん（失礼かな？）のような、親しみとやさしさがにじみ出ている接し方で、子ども達の気持ちをどんどん楽にしていき、いろいろな話を引き出します。私自身改めて、子どもとの接し方・保護者や地域の方々との関わり方やつながり方を学ばせていただきました。

さて本校が、熱海さんに一番力を貸していただいている事例は、不登校傾向のある高学年男子児童の事例です。パンフレットになるということなので、

くわしいことは書けないのですが、「当該児童への関わり」「家族との関わり」「教職員の連携」「地域との連携・協力」など、児童を取り巻く環境に働きかけ、つないでいくことが必要なケースでした。（というより、現在も進行形です）

ケース会議なども、遅い時間設定にも関わらず、いつも参加していただいております。その中での発言に、いつも気づかされ、元気づけられます。

また、雪降る中をその子の家まで何度も迎えに行ってもらったり、保護者との懇談にも数多く同席していただきました。「こんな事を頼んでもいいのか。」「あっ。頼んでしまった。」というときにも、にっこり笑って「いいですよ。」という言葉をいただくことをいいことに、いつも甘えてばかりで申し訳ありません。

現在子どもを取り巻く問題は、複雑に絡み合い、学校だけでは問題の解決が困難なケースが数多くあります。今後も私たち教職員に、スクールソーシャルワーク的な視点や手法を伝授していただきたいとお願い致します。

学校は、スクールソーシャルワーカーを活用し、児童生徒の様々な情報を整理統合し、アセスメント、プランニングをした上で、教職員がチームで問題を抱えた児童生徒の支援をすることが重要です。また、教職員にスクールソーシャルワーク的な視点や手法を獲得させ、それらを学校現場に定着させることも同様に重要なことです。

「生徒指導提要」（文科省：平成22年）

# 熱海先生へ、愛を込めて花束を

稚内東小学校教頭 坂本 孝行

母親の温かさ、そのぬくもりが子どもにとってのエネルギーになります。子どもが様々な困難を乗り越え成長しようとするとき、母親との心のつながりが安心感となります。熱海さんは、子どもの気持ちが揺れているとき、子どもが寂しさを感じたとき、そっと包み込み支えてくれる、そんな母親のような存在です。

その働きは、“つながり”をつくってくれていることです。

東地区子育てネットワークでの熱海さんの存在は大きいです。ネットワークが立ち上がって4年になるのでしょうか、熱海さんの活躍がなければ、子どもが置かれた環境が見えないままの支援になっていたでしょう。民生委員さんとのつながり、地域の関係機関とのつながりによって、子どもの変化や成長が見られました。私たち教職員が組織で様々な困難を抱えた子ども達と家庭との関わりを持つことができます。

子どもも親も、熱海さんに対しては、どんな想いも受け止めてもらえる安心感があります。それが多くの人とのつながり(関わり)をつくります。もちろん先生方もそれを感じることができ、児童理解を深めていくときに大切なことを学んでいます。誰もが熱海さんに、心を開いて相談できるのです。また、誰にでも積極的に関わりをもつ姿を

見ると、まだまだ私たち教職員は力不足であると感じます。

この間、私たちは確実に子ども達とその環境が変化していく様子を見てきました。また、そのことに喜びを感じてきました。

Yくんは、2年前、荒れていました。困ってしまいました。思うようにならないと暴れ、けんかばかりで友達も作れず、居場所を求め、さまよっていました。私たちは、この子の何がそうさせているのか、背景が一定に見える中で、またネットワークの支えで、支援を続けることができました。保護者との力合わせもできました。1年たったときには、かつてのことは想像もできないくらい穏やかな気持ちに変化していきました。学校だけではできない多くの支えでこの子への関わりを、確信を持って続けていった結果だと言えます。

民生委員さんを始め、多くの方の子どもや家庭の見守りにより、子どもの心の居場所を作っていくことができたのは、熱海先生がつくってくれたネットワークのおかげです。感謝しています。

今年は週に2回ですが、熱海先生が来ると、ほっとするような、気持ちが温かくなるような、そんな空気をつくってくれます。

SSWは、先生方が届かない暗い所に光を当て、元気をもらえる存在です。

困難を抱える家庭が増えています。  
それゆえ、学校をベースにした他職種の協働による支援が求められています。子どもや家庭への効果的支援や具体的方法について学び合うことが教育相談の最も重要な課題となっています。(稚内A教諭)



# 東中学校におけるSSW〈熱海先生〉に感謝！

稚内東中学校教頭 加賀 誠

## はじめに

東中にSSW（スクールソーシャルワーカー）が今年度来てくださると聞いた時は、有り難いことだと思いました。以前よりは、グンと少なくなったとは言え、不登校生徒、不登校気味生徒は、あいかわらず存在し、先生方もその対応に困惑の様相を呈していた時だったので、藁にもすがる思いで、SSWに期待したものです。

今や「子どもを変える」のは、学校の努力だけでは難しく、社会的な力、地域の力を借りられる時は、プライドを捨て借りるという事も大切な心だと思います。それで「子どもが少しでも変わる」ならそれでいいのだと思います。我々は、子どものために、生きている職業なのであります。

しかし、正直言って、SSWがどんな働きを具体的にするのかよくわからなかったのも事実です。でも、子どもを支援する大人が一人増えたのは嬉しい限りでした。実質二人分も三人分もありましたが…。

## 時にはダンプカーのように 時には毛細血管を流れる熱い血のように

この1年の熱海先生の活動と人となり、SSWの言葉で表すと、

S（すばやく）S（しっかり突き進む）W（ダンプカー）／S（スマイルで）S（相談できる）W（大丈夫な安心感のあるおふくろさん）／S（するすると）S（相談しながら心の糸を通わせて）W（だんだんこちらのペースにはめてゆく）／S（組織の糸）S（静かに結ぶ）W（だんだん強く）こんな感じになると思います。

- ① 誰にでも笑顔で、相談しやすく先生方との情報交換を密にするコミュニケーション力。
- ② 子どもに上手にやさしく話しかけ心を結ぶ。学校へ来たなら素早く学級を回り子どもの様子を把握してくる関係力。
- ③ 保護者や子どもを取り巻く大人と、信頼関係を結び改善に向かわせる行動力。

- ④ 民生児童委員や、地域の人々と上手にネットワークを作っていく連携力。

見かけとは違う、その素早さ、したたかさ、鋭さが、今東中の力となっているのは確実です。

## SSWの支援で子どもが変わった実践例

- ① 不登校気味だった中2男子I君。祖母（I君の母の母親）家から通っている。父と母は離婚。父は実家にいる。母親は別な家庭を持っている。祖母の家は、有職少年の兄、その友人など集まり環境がすこぶる悪い。祖母は生活保護。指導力全くなし。ボケの症状も出ている。祖母は、本人が休むと言ったら、担任にごまかしても休ませる。欠席が頻繁。
- ② 何とか、父親に引き取ってもらい祖母の家から本人を連れ出したい。父親は、初めその気はなく、祖母はかわいい孫を放したくないと強く主張。
- ③ 担任は、父親と連絡を密に取り、現在の事態を報告し、このままではまずい事を何度も伝える。祖母は、熱海先生が、親身に相談相手となり、生活の実態、現在の状況を打破しなければと関わる。
- ④ 祖母は、孫を手放し、父親の実家へ。その結果、欠席が全くなくなる。

※これは、ほんの一例に過ぎませんが、SSWが関わり、祖母の心を解かし、その結果子どもが大きく変わった代表的な例です。現在、もう一人の不登校生徒の母親に密着してもらっています。

東中学校では、SSW熱海先生を「子どもを支援する」仲間の一員として、深く信頼し、頼りにし、そして深く感謝しています。今後ともよろしくお願ひいたします！

# 児童・保護者・学校の応援団

## SSW塩田久美さんに感謝の気持ちをこめて

潮見が丘小学校教頭 石澤 正紀

SSWの塩田久美さんと教育相談所の皆さんには、子どもたちと保護者と教職員にいっぱい、いっぱいの笑顔と元気を与えていただいたことに感謝します。

潮見が丘小学校でも、「児童・家庭」支援（安心して生活できる家庭を支える支援ネット活動）の充実が求められています。こうした中で、今年度から始まったSSWの学校巡回型の学校支援・児童支援の取り組みは、潮見が丘小学校の児童・保護者・教職員の応援団として、大きな役割を果たしていただきました。

私のメール履歴を見てみると、塩田さんとの送受信数が圧倒的に多く、日に4～5度とやり取りをしています。その内容は、巡回時の打ち合わせ、個々の教育相談、専門機関との連携、学習会等まで、多様です。しかも、多くは、心苦しいばかりの不規則な時間帯の相談なのですが、迅速で、丁寧な対応をしていただいています。この迅速さと丁寧さは、教育支援・相談を求めるものにとって、絶対的な信頼感をもたらします。もちろん、私もその一人で、なかなか解決の出口の見えないことから生じる不安感をこの連携が、何度となく吹き飛ばしていただける経験をしてきました。

児童の悩み相談、担任の教育相談、保護者の教育

相談・カウンセリング、医療機関や教育関係機関との連携のコーディネートなど、教育相談の送受信基地の役割を担っていただいています。今までの学校だけでは、手の届かなかった部分を補い、つなぎつつ、着実に教育支援ネットが構築されつつあります。

多くの教職員・保護者が求め、抱える教育支援・相談の内容は深刻で、解決の糸口すら見つけていくことが難しく、ともすると希望を失い、孤立しがちになることが少なくありません。悩みを抱えながらも、誰にも相談することができないでいるケースが内在しています。これは最近の人間関係の希薄さ、核家族化や様々な多忙感などとあいまって、現場では深刻な問題の一つだと思います。

逆にこんな時代だからこそ、自分の悩みを理解し、共感してくれる人の存在が、身近に求められています。

子どもは応援団を求めているのです。

巡回時に学校に笑顔で訪れ、丁寧な個々の教育相談をし、児童や保護者、教職員に希望と元気を与えていただいたこの1年間の取り組み・連携に感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

来年度も、いっぱい、いっぱいお世話になると思います。よろしく願います。

# 「感謝と思いやりの心」をこめて

潮見が丘中学校教頭 安栄 智裕

SSWの活動が始まり1年が過ぎようとしています。

本校担当の塩田久美さんにはこの1年間大変お世話になりました。書面にて失礼ではありますが、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

塩田さんの活躍について簡単ではありますがご紹介いたします。

本校には木曜日の午後からお越しいただき、子ども達は勿論のこと、教職員の相談にも親身に対応していただいています。

と、これはあくまでも定例であり、実際は、必要があればいつでも（文字通り、土日を問わず、昼夜を問わず）子ども達・教員のために活動していただいております。時間外勤務手当が出ているか大変気になっているところでもあります。きっとボランティアで足を運んで下さっているんだろうかと恐縮しております。

勤務初日から各学年のフロアで子ども達と積極的にコミュニケーションを図って下さったり、学校行事は勿論のこと、学年の活動などにも顔を出して下さったりと細かな配慮をいただいております。

本校は、教員集団も若く、まだまだ経験を積まなければなりません。塩田さんは教員にも声をかけて下さり、男女問わず若い教員の相談にのって下さっています（本来は私の仕事なのでしょうが、私自身も塩田さんに相談している立場なので・・・）。

また、急にお願ひした初任者研修講師も快諾いただき、当日までに沢山の調べや準備をして管内の初任者教師にお話しをしていただいたこともあります。本人達も大変勉強になったと感謝しておりました。

本校の学校経営の重点として「感謝と思いやりの心の育み」を設定しています。塩田さんの活動はまさにこの重点目標を体現していただいているものです。

今後益々お世話になりご迷惑をおかけするとは思いますが、我々も子ども達の為に頑張りますので、これからもお力をお貸しいただければと心よりお願い申し上げます、感謝の言葉に代えさせていただきます。

SSWの塩田久美さんと教育相談所の皆さんには、子どもたちと保護者と教職員にいっぱい、いっぴいの笑顔と元気を与えていただいたことに感謝します。

教育相談件数の推移

稚内市教育相談所

教育相談の方法	平成21年度	平成22年度	平成23年度
子育て相談電話	122	229	239
教育相談員学校訪問数 (SSW巡回相談含む)	128	129	339
来所面接相談	42	74	64

※平成23年度、二人のSSWの配置により、学校支援体制が強まっています。

# 抜群の評価に感謝して

今年一年間、二名のSSWは大活躍をしました。

学校内では、校長や教頭、教員はもちろんのこと、あらゆる職種の方々と協力しました。学校外では、教育委員会の学校教育課や子ども課、民生児童委員、福祉事務所、保健所、児童相談所、病院などの公的機関のほかに、その子に応じた様々な関係者とも協力しました。何度も何度も家庭訪問を繰り返しました。そして、必要に応じて教員と一緒に対策会議に出席したり、関係機関に働きかけて会議開催の依頼をしたりもしました。「担任では踏み込めなかった保護者との関係づくりに積極的に取り組んでいただいた」と大評判です。

一年間のSSWの活動の中でわかったことは、SSOを発し、悲鳴を上げている子どもや家庭の多さと、こうした子どもや家庭を支援する先生たちの熱心さでした。そして、誰もが通う学校で、子どもたちの発信を事前に受け止めることができるならば、どの問題でも重度化を防ぐことが可能だということを実証してくれました。

それだけではありません。重大な事態に直面したときには『関係機関との連携』を強め、迅速な対応で解決することも可能だということを実証してくれました。

SSWは、平成20年度から文部科学省によって事業化され、『つなぐ』『ささえる』『つくる』を

キーワードに全国各地で活動を創造しています。

今年度は、全国で944名が配置され、その配置地域は46都道府県、340地域だそうです。その中で、稚内のような『巡回型』で各学校と連携し、大活躍している地域は聞いたことがありません。

それは、『子ども支援指針』に基づく支援システムが機能化され、その共通理解の中で『SSW』が位置づけられているからだと思います。組織的に考えればとてもうれしいことです。

でも、「二人のSSWは、大変だったろうなあ」とも思います。大活躍をしましたが大忙しかったのも事実なのです。

それだけに二人のSSWへの応援のメッセージが、一年間の活躍の感謝と激励になると考えました。その意味で日常お世話になっている各学校の教頭先生にすべての関係者を代表していただき、あらためて原稿の執筆を依頼いたしました。

どの教頭先生も忙しいにもかかわらず、快く了解してくださいました。寄せられた文書は、いずれも玉稿!!!の宝・宝・宝。各校でのSSWの活躍のようすと温かい激励の言葉が書かれてありました。心から感謝し、謹んで紹介させていただきました。

本当にありがとうございました。

稚内市教育相談所長 平間信雄

## ■表紙写真

### 立花富美雄(たちばな ふみお)

#### ●経歴

1950年 稚内市抜海生まれ  
1993年 印刷会社を経て、立花写真事務所設立  
利尻、礼文、サロベツ、稚内、サハリンのコマ  
ンシャル写真を中心に各市町村の要覧観光パンフ、  
記念誌等の撮影を始め現在に至る

